



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 北海道大学結核研究所集談会記録                                                                   |
| Citation         | 北海道大学免疫科学研究所紀要, 35, 34-35                                                         |
| Issue Date       | 1975-03                                                                           |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/26493">https://hdl.handle.net/2115/26493</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 35_P34-35.pdf                                                                     |



# 北海道大学結核研究所集談会記録

研究報告会(昭和48年9月4日・5日)

## <第一日>

1. 有馬 純・高橋昭一郎: *M. scrofulaceum* と *M. gordonae* の形態学的鑑別の試み.
2. 佐々木昭雄: Phosphatidylinositol oligomannoside の免疫化学的研究.
3. 木村卓郎: 免疫応答に関与するサルモネラ菌及び菌体 LPS の影響.
4. 佐々木孝之: ウサギの抗ハプテン抗体産生に及ぼす担体の種類と胸腺摘出の影響について.
5. 小野寺昌彦: 抗 MANS 抗体に結合した MANS amide のケイ光特性.
6. 坂井留女・塩川洋之: 細胞性免疫の抗原としてのアゾベンゼンアルソネート-N-アセチル-L-チロシンについて.
7. 西江 純: 抗結核剤の合成.
8. 関川 勲・田中順江: 6-amino-1, 2, 4-triazin-5-carboxamide 誘導体の Hofmann 反応について.
9. 柿本七郎: その後のテトラゾリウム塩の合成.

## <第二日>

10. 奥山春江: 羊赤血球感作領域リンパ節輸出管細胞の機能.
11. 小野江和則: Mouse 脾の免疫細胞.
12. 菊地由生子: 家兎肺胞細胞による試験管内巨細胞形成について.
13. 柿沼光明・山本健一: 脱感作血清中に見出される皮膚反応惹起因子の部分精製.
14. 水野佑亮: モルモットの脾細胞のプラスト化 ( $^3\text{H}$ -チミジンの取り込み) に関する基礎的実験.
15. 高沢俊英・塩川洋之: ウマ骨格筋クレアチンキナーゼの結晶化.
16. 久世彰彦・橋松三郎: リファンピシン耐性菌の毒性について.

第201回(昭和48年10月5日)

関川 勲: Preclinical evaluation of antitumor agents

文献: CHEMTECH 424 (1972).

坂井留女: Tyrosine-azobenzene arsonate (ABA-Tyr) の誘導体について

i) 遅延型過敏症の免疫原としての働き

ii) 抗体産生時の担体としての働き

第202回(昭和48年11月6日)

塩川洋之: 水性二層分配による分離法について

山本健一: 細胞性免疫からみた結核菌免疫増強の機序

第203回(昭和48年12月11日)

木村卓郎: Relationship of the Structure of Bacterial Lipopolysaccharides to Its Function in Mitogenesis and Adjuvanticity.

文献: J. M. Chiller et al. Proc. Nat. Acad. Sci. 70, 2129 (1973) 他.

柿本七郎: Influence of Some Antitumor Antibiotics on Viral Neoplasia: P. Chandra et al. Naturwissenschaften 59, 448 (1972).

第204回(昭和49年1月22日)

奥山春枝: 二次反応において働らく memory cell について: The Proliferative and Anamnestic Response of Rabbit Lymphoid Cells in vitro.

II. Effect of Passive Antibody on Immunologic Memory in Lymph Nodes Contralateral to the Site of Antigen Injection: Thorbecke, G. J. and Bell, M. K. J. Immunol. 111, 1043 (1973).

他

水野佑亮: 結核免疫モルモット血清の脾細胞プラスト化因子

第205回(昭和49年2月12日)

板倉克明(北大・医・第一病理): Alloantigen をめぐる 2, 3 の問題

第206回(昭和49年3月13日)

永井克孝(東大・医科研): 実験的アレルギー性脳脊髄炎 (EAE) の抗原と発症機構

学会報告・卒業論文発表会(昭和49年3月20日)

1. 有馬 純・佐々木孝雄: Swimming pool granuloma より *M. marinum* を分離した一症例.

2. 有馬 純・高橋昭一郎: *M. scrofulaceum* と *M.*

gordonae の形態学的鑑別の試み.

3. 大原 達・木村卓郎・佐々木孝之・清水正秀: 抗ハブテン抗体の産生及びその性状に及ぼす担体の種類, ならびに胸腺摘出の影響について.
4. 佐藤恒久: 新テトラゾリウム塩の合成.

第 207 回 (昭和 49 年 3 月 22 日)

高橋義夫教授退官記念特別講演

第 208 回 (昭和 49 年 5 月 23 日)

東 市郎 (阪大・医): 結核菌菌体成分のアジュバント作用

## 北海道大学免疫科学研究所集談会記録

第 1 回 (昭和 49 年 6 月 11 日)

菊地由生子: ラット発生癌による人工転移癌の治療の試みと自家癌一宿主間にみられる反応細胞の動態

- 文献: 1. Takeda, K. 他. Treatment of artificial metastases of methylcholanthrene-induced rat sarcomas by autoimmunization of autochthonous hosts. *Cancer Res.* **28**, 2149, (1968).
2. 石井良文他. 自家腫瘍拒絶における effector cell の解析. *日病誌*, **62**, 181, 1973.

柿沼光明: ウサギ免疫グロブリンの遺伝標識に関する最近の知見

第 2 回 (昭和 49 年 7 月 9 日)

内田孝宏 (札幌大・癌研): サルモネラ O 抗原の構造と抗原変換について

研究報告会 (昭和 49 年 9 月 10 日)

1. 関川 勲・高橋由美子: 免疫抑制剤の研究 Methylsulfinyl methyl heterocyclol ketone の合成.
2. 西江 純: Pyrido (2,3-C) pyrazolone の誘導体の合成について.
3. 高沢俊英・塩川洋之: クレアチンキナーゼの超遠心分析.
4. 坂井留女・塩川洋之: Azobenzene-*N*-acetyl-L-tyrosine (ABA-Tyr) 感作モルモットの抗原に対する *in vivo*, *in vitro* での応答.
5. 水野佑亮・黒野憲二・塩川洋之: 結核菌濾液蛋白質のリンパ系細胞に対する幼若化効果の検討.

(I) PPD の Mitogen としての性質

(II) 結核菌濾液から Mitogen を分画する試み.

6. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬 純: 薄層クロマトによる各種ミコバクテリアの磷脂質分析.
7. 有馬 純・高橋昭一郎: フリーゼエッチング法によるミコバクテリアの微細構造.
8. 奥山春枝: Behçet 眼及び皮膚発疹部の蛍光抗体法的使用.
9. 小野江和則: Sezary Syndrome.
10. 森川和雄: BCG cell wall のアレルギー病原性.
11. 柿沼光明: Azobenzene-*N*-acetyl-L-tyrosine (ABA-Tyr) に対するモルモットの遅延型アレルギーの発現に及ぼすアジュバントの影響.
12. 木村卓郎・清水正秀: 免疫応答における LPS の働きについて.
13. 佐々木孝之: hapten-carrier 系免疫応答について.
14. 小野寺昌彦: 抗 MANS 抗体の免疫経過による変化 (続き).
15. 山下慎子: マウスにおける Antigenic competition.
16. 奥山春枝: 家兎の抗体産生機構の解析. 感作領域リンパ節輸出管内細胞の PFC 産生促進効果の追及.
17. 久世彰彦: RFP による治療成績. 再排菌例の検討.

第 3 回 (昭和 49 年 10 月 8 日)

有馬 純: フェージによるストレプトマイシン耐性因子のミコバクテリアへの導入について

- 文献: W. D. Jones and H. L. David: *Tubercle*, **53**, 35, 1972. W. D. Jones, Jr., R. E. Beam and H. L. David: *ibid.*, **55**, 73, 1974.